

ジョン・M・シング

2 取り立て野郎

あの野郎は向こうのクーン村に寝泊まりして
執行官の部屋の半分を使ってたとさ

真っ暗な闇夜がクーマサハーンの村を包んだ日
雨が星を浸しちまうんじゃないかって土砂降りだよ

あの野郎が言ったのさ「今夜はひでえ雨で
野うさぎ一匹もヒースにゃ出られやしねえな」 5

家に鍵かけて出てこねえ口クデナシどもを二十人くらい
ひっ捕らえて 俺様の令状を突きつけてやるうじゃねえか」

その夜は浅瀬も真っ暗だった
水かさが増し 白く泡立つ勢いだ 10
だがな あの野郎はこれっぽっちも気にしやしない

お巡りたちが言ったのさ「おい 足元に気をつけるよ
一体どうやって飛びのる石なんか見つけれられるってんだ

俺たちはオメエのその血生臭え仕事とは金輪際手を切らせてもらうぜ」
「手を切るなんざ上等じゃねえか とっとと失せやがれ」 15

あの野郎は勢いつけて一歩二歩と飛んだとさ
するとどうだい お巡りたちは叫び声と水しぶきの音を聞いたんだとよ

あの取り立て野郎は二日くらいして見つかったらしいぜ
引き潮になって漁師の網にひっかかってたとさ

(三木菜緒美訳)